

平成30年度

「NGO講演会等助成レポート」

一般財団法人ゆうちょ財団

国際ボランティア支援事業部

NGO海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金配分を受けているNGOが、学校、地域団体等で国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、当該NGOの海外での活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

概要は次のとおりです。

○助成する金額は、講演会等1回につき所要経費のうち5万円を上限とします。

ただし、助成回数は1団体につき1年1回。

○助成の対象とする団体は、NGO海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金配分を平成23年度から平成26年度に受けている団体です。

○助成の対象となる講演会等は、次のとおりです。

- ・参加者（児童・生徒等を含む）が概ね30人以上見込まれる講演会等であること
- ・平成30年4月から平成31年2月末日までに開催する講演会等であること

○平成30年度は8団体へ助成いたしました。

# Index

|   |                              |    |
|---|------------------------------|----|
| 1 | 特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン          | 1  |
| 2 | 特定非営利活動法人日本ハビタット協会           | 3  |
| 3 | 特定非営利活動法人リボン・京都              | 5  |
| 4 | 特定非営利活動法人国境なき子どもたち           | 7  |
| 5 | 特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会  | 9  |
| 6 | 特定非営利活動法人パルシック               | 11 |
| 7 | 特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会 | 13 |
| 8 | 特定非営利活動法人国際交流の会とよなか (TIFA)   | 15 |
| 9 | アンケート結果                      | 17 |

# 特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン

1. 開催日：平成30年6月28日（木）12時00分～14時30分
2. 開催場所：横浜国立大学 法学研究棟2階201教室
3. テーマ：「ネパールにおけるNGO活動の現状」
4. 講師：相川 政夫（当団体理事長）
5. 参加者：22名
6. 内容：①ネパールにおけるNGO活動の現状（ネパール政府の対応政策等）  
②カブレ郡、アナイコット村におけるゆうちょ財団事業の現状と対応  
③これからのNGO活動で目指す目的、住民サイドへの対応策等  
④ネパール人留学生からの意見&質疑応答によるディスカッション

~~~~~

## 講演会内容

### ■講演概要

横浜国立大学国際社会科学研究院小林誉明准教授のゼミ生を中心に参加者を集めることになり、その他の学生にも呼びかけをしました。当団体のフェイスブックを見て出席した人は2名でした。また、ゆうちょ財団より2名参加。

当会の説明とネパールにおける今までの事業、現在の事業について説明。ゆうちょ財団の事業を説明。最近のネパール政府の事情やNGOを取り巻く現時点のネパールの状況等説明、質問を受ける。

後半は海外でNGO活動をする上での問題点等、学生たちと意見交換、ディスカッションをする。

#### 講演①

当団体の相川理事長によるパワーポイントを使ってネパールにおける事業等現場からの活動報告説明（ゆうちょ財団事業の説明含む）、参加者から質問を受ける。

学生たちのネパールにおける貧困対策の取り組みについての質問を受ける。開発事業を作成&実施には現場のカウンターパートとの信頼関係が重要であることを説明、確認。今後は当団体として学生への助言等相談にのること、ネパール訪問時の協力も提案する。

#### 講演②

学生から海外でNGO活動を実施する上での心構え等について質問があり、ネパール人の日常的な気質等、ネパール人、サンガットさんの意見を聞きながら今後の活動についての注意事項等を懇談する。

小林ゼミのネパールでの取り組みに今後は当団体からも意見等をしていくことを約束する。

長期にわたるNGO活動を継続することから見えてくる信頼関係が援助する側の位置づけでも重要であることを説明。学生たちにはそうした事業を継続することが、今後どのように彼らに影響を与え、展開していくかを期待したい報告、講演会であった。

### ■参加者の感想

- ・とても為になる講演でした。ありがとうございます。
- ・実際にしている人のお話を聞いてイメージができました。
- ・機会があったら事務所を訪問して話を聞きたいです。
- ・日々の活動について、詳細は大変興味深いものと思った。スライド、写真が多くわかりやすかつ

たです。

- ・国際協力分野で NGO が活躍していることは知らなかった。今回、報告会でネパールの文化、自然について興味がわいた。
- ・以前からラブグリーンジャパンの活動は知っていたが詳しい話を聞く機会は貴重であり、興味深い内容でした。

#### 当財団の NGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要

- 支援活動：アナイコット村、有機農業研修センターにおける女性利用者を配慮した施設改修工事
- 実施期間：平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月
- 実施地域：ネパール連邦民主共和国アナイコット地区

①「講演会の様子」



②「講演会の様子」



③「講演会の様子」



## 特定非営利活動法人日本ハビタット協会

1. 開催日：平成30年8月24日（木）16時00分～17時30分
2. 開催場所：JICA地球ひろば セミナールーム201AB
3. テーマ：「1日3食プロジェクト報告会～栄養のある給食をラオスの子どもたちに届けるための挑戦～」
4. 講師：太田 祥香（当団体プロジェクト担当）
5. 参加者：28名
6. 内容：助成事業である1日3食プロジェクトの報告会を実施し、成果や今後の課題について報告する。参加者が、主体的に考えられるよう報告だけでなく、グループワークを支援、問題を掘り下げていく。

### 講演会内容

#### ■講演概要

当団体が実施している1日3食プロジェクト（ラオス国ルアンパバン県の学校における生活環境改善事業）を紹介した。夏休み期間であるため、学生の参加者を見込み、日本の学校生活では身近な給食というトピックから、ラオスの子どもたちの生活、貧困問題について考え、国際協力への興味、関心を深める場を提供することを目指した。また、単に給食を提供するだけでなく、学校による安定供給を目指すというこのプロジェクトの特色を紹介し、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向け、今後の途上国支援の在り方について、参加者が考えを深められるように心がけた。

#### ■プログラム詳細

- 16：00－16：25 アイスブレイキング「思い出の給食」
- 16：25－16：55 活動報告「1日3食プロジェクト」
- 16：55－17：20 グループワーク
- 17：20－17：30 まとめ

プロジェクトの最新の様子を報告した。その上で、グループワークとして「もしも給食がなかったら？」をテーマに、①給食がなかったらどんなことが困るか②給食がないという状況になってしまう原因はどんなことが考えられるか③自身が考える解決法についてそれぞれ考えてもらい、グループ内で意見を交換し、考えを深められるようにした。学生の参加も多かったが、10代～60代までの幅広い参加者があり、年代を超えて、給食に関するいろいろな思い出を語り合い、参加者は、様々な角度から議論を深めることができていた。参加者の中には給食がないことによる問題を、栄養不足だけでなく、学力の低下や児童労働に結び付け、食育等にもつなげて考えていたのが印象的であった。

#### ■報告者：太田 祥歌（当団体プロジェクト担当）

活動報告の内容は、当団体が2016年からラオス国ルアンパバン県で実施してきたプロジェクトの取り組み内容、成果、今後の課題を中心に報告した。また、ゆうちょ財団の助成により整備したパクセン中学校の給水設備により、養鶏が可能となっただけでなく、学校での子どもたちの衛生環

境、水の使用状況等の生活環境が改善したことについても報告し、参加者からも学校における生活環境改善に総合的に取り組んでいる点を評価する声が上がった。

#### ■参加者の感想

- ・1日3食プロジェクトが学校の衛生環境や生活環境の改善につながっているというのが大変興味深かった。
- ・1日3食プロジェクトが食べ物（給食）のみならずトイレや水の設備、技術の提供等広範囲で学校の状況を変えていることがすごいと思った。
- ・子どもたちにとって、食がどれだけ重要かを知るきっかけになった。途上国への支援活動に参加してみたいと思っていたので、参考になった。
- ・住民に考えてもらう、子どもたちが譲り合う、仕組みづくりをするという発想が素晴らしいと思う。
- ・説明がわかりやすかった。参加者から質問がいくつか出たり、参加型の講演会になっていたり、興味深かった。グループワークについても、今後の参考になった。

#### 当財団のNGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要

■支援活動：ラオスのルアンパバン県の学校における生活環境改善事業

■実施期間：平成29年5月～平成30年3月

■実施国及び地域：ラオス人民民主共和国ルアンパバン県

①「アイスブレイキングの様子」



②「グループワークの様子」



③「グループワークの様子」



## 特定非営利活動法人リボン・京都

1. 開催日：平成30年9月11日（火）15時00分～16時30分
2. 開催場所：当団体事務所
3. テーマ：ルワンダ事業のフォローアップとフェアトレード報告会
4. 講師：小玉 昌代（当団体理事長）
5. 参加者：13名
6. 内容：講演①「ルワンダにおけるフォローアップ事業の活動報告」  
講演②「フェアトレード作品の紹介」  
講演③「ルワンダ訓練生のその後の進路について」

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

### 講演会内容

#### ■講演概要

#### 講演①ルワンダにおけるフォローアップ事業の活動報告

最初にルワンダで起きたジェノサイドの歴史、貧困率の高さといった課題等から現地における職業訓練の必要性を説明した。ガチュリロ職業訓練校で洋裁指導を行っている写真を見せながら、活動紹介を行った。短期フォローアップ指導の結果、作品の完成度が上がり、修了生自らがデザインした洋服が商品化される等、大きな成果が見られたことを報告した。

#### 講演②フェアトレード作品の紹介

ルワンダからフェアトレードで送られてきたブルゾン、トレンチコートといった実物の作品を参加者に手に取って見て頂いた。

#### 講演③ルワンダ訓練生のその後の進路について

2018年3月に訓練生にアンケートを取り、当団体の指導後も訓練生の7割以上が洋裁関係の仕事につき、収入金額は平均約2.4倍に増加したことを報告した。また、日本人の指導により時間を守る習慣が身に付き、職場の上司や顧客から信頼されるようになった、という声もあり、洋裁技術だけではなく日本人の仕事に取り組む姿勢を学んでもらえる経験にもなった。

#### ■参加者の感想

- ・実際にフェアトレードで送られてきた作品も見ることができ、分かりやすかった。
- ・とても良かった。

### 当財団のNGO海外援助活動助成又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要

■支援活動：「ルワンダ共和国キガリ市でのフェアトレード事業と洋裁訓練フォローアップ指導」

■実施期間：平成29年7月から平成29年12月

■実施地域：ルワンダ共和国キガリ市



① 「講演会のチラシ」



② 「ルワンダにおけるフォローアップ事業の活動報告」



③ 「ルワンダにおけるフォローアップ事業の活動報告」



## 特定非営利活動法人国境なき子どもたち

1. 開催日：平成30年9月15日（土）14時00分～15時30分
2. 開催場所：アイテムフォトギャラリー「シリウス」
3. テーマ：国境なき子どもたち写真展2018 Class Rooms  
～子どもとしての時を過ごす場所～ ギャラリートーク
4. 講師：清水 匡（当団体理事）  
渡辺 真理（アナウンサー）
5. 参加者：78名
6. 内容：当団体の清水匡理事が長年にわたりカンボジアやフィリピン等の支援各国で撮影した写真を展示した当団体の写真展2018。その開催期間中の土曜日に、フリーアナウンサー渡辺真理さんを司会にお迎えし、清水と二人でギャラリートークを行いました。

~~~~~

### ■講演概要

当団体にて20年、海外の活動地を訪れ出会ってきた多くの子どもたちについて、当団体の清水匡理事が展示写真を章ごとに解説しながら、渡辺真理さんとフリートークを実施。カンボジアやフィリピン、パキスタン等の支援事業地について話しました。

14:00 開始（司会：渡辺 真理）

「第一章 通学」

「第二章 私たちの学校」

「第三章 僕たちの教室」

「第四章 自立を目指して」

「第五章 子どもとして過ごす時間」 フリートーク／清水匡

15:20 質疑応答

15:30 終了

- ・身振り手振りで接しながら、何年も通い続け、彼らの成長を撮影してきた中で見えてきたこと
- ・現在は成長して一家の主となり、仕事に励む青年たちが、まだ若かりし頃のこと
- ・写真展タイトル「Class Rooms ～子どもとしての時を過ごす場所～」への想い
- ・学校に行かず路上で暮らしている子ども、学び舎がなく青空教室で勉学に励む子ども
- ・途上国の子どもたちが学校に通うことは、日本にいる私たちが想像する以上に困難
- ・1日にわずかでも勉強のための時間を割くことができれば、たとえ学校に通わなくてもそこが子どもたちの「教室」

小雨振る三連休の初日にもかかわらず、お子さん連れや、ご高齢の方々まで幅広い層の方にご参加いただきました。

## ■参加者の感想

- ・現地に溶けこんでいる方の写真を、秘話と共に拝見でき、とても感動しました。ありがとうございました。渡辺真理さんの進行も心地がよく、貴重な時間を共有できたこと、幸せでした。
- ・過酷な状況におかれていることもたちの様子を、現地の様子を知っているスタッフから聞けることは意義あることでした。
- ・普段全く知らない地域の現実がよくわかりました。

## 当財団のNGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要

■支援活動：スラム地域における教育支援・子ども保護事業

■実施期間：平成29年4月から平成30年3月

■実施地域：フィリピン共和国マニラ首都圏内カロオカン・ノース市に位置するバゴンシーラン地区及パヤタス地区

①「熱心に耳を傾ける聴講者たち」



②「講師：渡辺真理さん(左)と清水匡理事(右)」



## 特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会

1. 開催日：平成30年9月28日（金）
2. 開催場所：多摩川幼稚園 中ホール
3. テーマ：「今なお続くポルポト政権の爪痕」、「カンボジアの教育支援の現状」
4. 講師：①大沼 陽子（当団体副理事長）  
②Ke Vira（カンボジア支援校校長）  
③Kulab Thok（カンボジア支援校教員）  
④Chanbopha Heng（カンボジア通訳兼サポーター）
5. 参加者：40名
6. 内容：カンボジアから研修で2名の教員と1名の通訳兼サポーターを日本に招聘するのに合わせて講演会を開き、当団体からは「カンボジア支援活動内容」、カンボジア人からは「カンボジアの現状と当団体の支援」について話してもらう。

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

講演①「今なぜカンボジアに教育支援なのか」講師名：大沼 陽子（当団体副理事長）

カンボジアに小学校校舎を一棟寄贈したことから始まった当団体の「支援活動のきっかけ」「教育者だから見えた継続支援の必要性」「支援内容」「貧困家庭への持続可能な経済支援 Mother to Mother 活動」についての説明を行った。

講演②「両親の体験から見えた私のなすべきこと」

講師名：カンボジア通訳兼サポーターChanbopha Heng

ポルポト政権時代は子どもだったため、知識人の虐殺の難を逃れた両親から聞いた話、政権崩壊後教育の大切さを知る両親が学校に行かせてくれたため今があるという自身の体験、また、発足当初から当団体の通訳をしてきた立場から見た当団体の活動の様子、ゆうちよ財団助成の「Mother to Mother」活動の様子等を語った。

講演③「ポルポト政権の爪痕」講師名：カンボジア支援校校長 Ke Vira

教育という視点からみたポルポト政権後の国の歩み、赴任先コールタメイ村に当団体の支援で小学校が誕生しその後中学校、高等学校が誕生するまでの様子等を語った。

講演④「当団体による教育支援の効果」講師名：カンボジア支援校教員 Kulab Thok

自身が子どもの頃の学校の様子、先生になって戻った時の学校の様子、当団体の支援が入ってから学校の様子、「Mother to Mother」活動の様子等を語った。

#### ■参加者の感想

- ・ポルポトの影響等ほとんど知らなかったので聞けて良かった。
- ・継続した支援の必要性がよくわかった。
- ・自分でも何かできることがあったらしようと思った。

- ・活動に参加したい。
- ・カンボジアの学校ではどんな勉強をしているか等もう少し知りたかった。

**当財団の NGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要**

■支援活動：最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動「Mother to Mother」の強化事業

■実施期間：平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月

■実施国及び地域：カンボジア王国シェムリアップ州

①「カンボジアの先生達と」



②「講演会の様子」



③「同時開催絵画展の様子」



④「同時開催マザー製品販売の様子」



## 特定非営利活動法人パルシック

1. 開催日：平成30年10月1日（日）18時30分～20時30分
2. 開催場所：サロンド・富山ティールーム Folio
3. テーマ：紅茶のフェアトレードから考える～SDGsの時代に私たちができること
4. 講師：①長坂 寿久（財団法人国際貿易投資研究所/客員研究員、逗子フェアトレードの会/共同代表理事）  
②高橋 知里（当団体職員、元デニヤヤ駐在員）
5. 参加者：42名
6. 内容：①新『国際フェアトレード憲章』とSDGs  
②スリランカにおける紅茶産業と小規模農家の挑戦と課題

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

講演①：新『国際フェアトレード憲章』とSDGs

講師名：長坂 寿久（財団法人国際貿易投資研究所/客員研究員、逗子フェアトレードの会/共同代表理事）

2018年9月25日に発表された「新国際フェアトレード憲章」およびフェアトレードに対応しているSDGsの項目を指標ごとに細分化して、解説した。商品の買い物やフェアトレードタウン運動への参加等を通じた市民一人一人の関わり方も案内された。

講演②：スリランカにおける紅茶産業と小規模農家の挑戦と課題

講師名：高橋 知里（当団体職員、元デニヤヤ駐在員）

スリランカ南部で2011年から取り組んできた小規模農家による紅茶の有機栽培転換事業の報告をした。堆肥づくりやバイオガスの活用につき、導入から複数年たった今、直面している課題と今後の計画について最新の現場の様子を伝えた。

#### ■参加者の感想

- ・開発途上国の現状を通して日本の食や農業について考え直す機会になりました。食や農というキーワードは先進国、途上国問わず、世界中共通のテーマ課題であるため、国の垣根を越えて一人一人ができることをやってみればよいと思いました。
- ・経験に裏打ちされたすてきな報告でした。“長い努力が必要”と教えていただきました。

#### 当財団のNGO海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要

■支援活動：農業協同組合の組成及び運営指導（H23年度実施）、紅茶有機栽培農家のための共同出荷組合拡大及び運営指導（H24年度実施）

バイオガス消化液を液肥として活用した有機紅茶栽培（H27年度実施）、小規模農家による紅茶の有機栽培の生産性向上支援（H28年度実施）

■実施期間：平成23年4月から平成25年3月、平成27年4月から平成29年3月

■実施地域：スリランカ民主社会主義共和国マータラ県デニヤヤ郡

① 『スリランカにおける紅茶産業と小規模農家の挑戦と課題』を報告している様子」



② 「紅茶を飲みながら報告を聞く会場の参加者の様子」



③ 「講師2名が参加者の質問に応じている様子」



## 特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会

1. 開催日：平成30年11月10日（土）14時00分～16時00分
2. 開催場所：早稲田奉仕園 You-I ホール
3. テーマ：ラジオで変える・バングラデシュで働く子どもの未来
4. 講師：猪瀬 絢子(当団体バングラデシュ前駐在員)、日下部 尚徳(東京外語大学講師)
5. 参加者：42名
6. 内容：講演

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

バングラデシュ前駐在員の猪瀬絢子職員より、当団体が2006年からバングラデシュの首都ダッカで取り組んでいる家事使用人の少女たちの支援について報告した。当団体では家事使用人として過酷な労働条件で働く少女たちに、基本的な読み書きや計算等を学ぶ機会を提供する支援センターの運営を現地NGOと協働で進めているほか、コミュニティラジオを用いた児童労働削減を呼び掛ける啓発活動により、社会への働きかけを行っている。コミュニティラジオを通じて働く少女たちの現状を伝えることで、ラジオのリスナーやラジオ局のスタッフに起きた変化等、インタビューを通して見えてきたことを具体的な事例を用いて紹介した。

その後コメンテーターの日下部尚徳さんより、NGOが支援をしていく上で必要なステップ（①物資を届ける、②問題を抱える当事者の課題解決能力を高める、③貧困を生み出す社会の仕組みを変える、④地球規模で社会を良くする）を紹介した上で、当団体の児童労働をなくすための取り組みがどのステップに該当するのか解説を加えた。また、文化・社会的背景を踏まえ、バングラデシュ社会における児童労働の現状についてコメントをした。

質疑応答の際には会場から多くの質問やコメントがあり、参加者と活発な意見交換を行うことができた。その他会場ではバングラデシュ、ネパールのフェアトレード商品の販売、バングラデシュの家事使用人の少女たちについて取り上げた書籍の販売を行った。

#### ■参加者の感想

- ・今回の講演会の参加者は年配の方が多く印象でした。長く生きて色々な経験をされた大人の話を聞いて、若い人が考えていけるような会であれば、もっと国際協力をしたいと思う人が増えるのかなと思いました。
- ・バングラデシュがどう変わってきたのか、何が変わっていないのかを伺えて良かったです。問題を解決することの難しさを感じ、モヤモヤしています。これからもっともっと考えられたら良いです。
- ・満席で熱気ある会になり良かったと思います。実際的な支援をもっとしていくためにさらに発展してもらいたいと思いました。
- ・実際に現地で活動された方のお話を聞くことができ、とても貴重な機会でした。ぜひまた継続的に開催してほしい。
- ・現地の問題とその解決のための当団体の取り組みの必要性について理解できた。実際に現地で活



動された方のお話は説得力があり、理解しやすかったし、おもしろかった。

**当財団のNGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要**

■支援活動：バングラデシュ・ダッカにおける家事使用人として働く少女支援プロジェクト

■実施期間：平成26年4月から平成27年3月

平成29年4月から平成30年3月

平成30年4月から平成31年3月

■実施地域：バングラデシュ人民共和国ダッカ

①「猪瀬職員による講演」



②「日下部さんによる解説」



③「会場全体の様子」



## 特定非営利活動法人国際交流の会とよなか (TIFA)

1. 開催日：平成31年1月18日（金）14時00分～16時00分
2. 開催場所：とよなか男女共同参画推進センター「すてっぷ」視聴覚室
3. テーマ：ゆうちょ財団助成事業 TIFA ネパール支援活動報告会
4. 講師：①山本 愛（元ネパール日本大使館員、現とよなか国際交流協会事務局次長）  
②中園 敏也（会社社長、キルト販売アドバイザー）
5. 参加者：42名
6. 内容：①ネパール社会について  
②TIFA ネパールのネパール支援活動  
③ネパールの手作り品・キルト、ニット、ビーズ工芸、ダカ織等の展示

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

講演①講師名：山本 愛（元ネパール日本大使館員、現とよなか国際交流協会事務局次長）

内容：1 ネパールの建国について 2 言語について 3 民族・カースト 4 女性の状況 5 女性運動の概要

ネパールの建国からの歴史と様々な言語が統一された経緯、女性がカーストや宗教、民族的な事情からの制限で教育・家庭の地位等差別されてきたことから、最近出てきた女性運動の様子等までわかりやすく説明された。

講演②講師名：中園 敏也（会社社長、キルト販売アドバイザー）

内容：最近のネパールの状況と活動

ネパールの女性たちが作った製品の販売をし、その売上金を現地にどう渡すか？

ネパールの女性たちが、頑張って働けるように、決められた製作料と報奨金を渡すことで激励する方法を考え順調に実践、また、奈良県立図書館での約1ヶ月実施する「ドダウリキルト」イベントを紹介。

震災地で作ったニット製品と震災で被害を受けた日本の東北とをつなぐ、ネパールで作ったニット帽子を東北で被災した老人施設や障害者学級の子どもたちへ送る活動の報告。

\*海野バティ (TIFA ネパールプログラムブンガマティ担当責任者)

震災で大被害を受けたカトマンズの近郊ブンガマティの女性の自立支援活動として、ニット製品作り(帽子、手袋、マフラー等)を援助し、販売を引き受けている状況の説明をした。

\*ネパール活動責任者 葛西美紗

ドダウリ村での活動、里親支援活動、給食支援活動は、まだ週1回しかできていないが、順調に進んでおり、子どもたち、家族から大変喜ばれている。体位向上、衛生教育等進行中。

#### ■参加者の感想

- ・ネパールの歴史や国の事を知らなかったのが、勉強になりました。どんな国なのか、国の成り立ち、女性の地位、政治・全体的なことを考えてネパールが見られるようになりました。カーストについてもっと知りたいです。
- ・支援することの意味、大切さを知ることができました。現地の女性たちの手作りニットや、キルト

トがもっと社会に知られたらよいと思う。

**当財団の NGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要**

- 支援活動：ネパール農村部の女性の経済的自立に向けたリーダーの育成
- 実施期間：平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月
- 実施地域：ネパール連邦民主共和国ジャナクプール県シンズリ郡ドダウリ村

①「報告会の様子」



②「報告会の様子」



③「報告会の様子」



## 平成 30 年度 NGO 講演会等の助成アンケート集計結果報告書

### 【全体:153名回答】

Q1：開発途上国への支援については、国同士が行っているほかに、本日の講演会等のようにボランティア団体(NGO)が住民等を対象とした支援・援助を行っていることを知っていましたか。

| 回答内容 |        | 回答数 | %   |
|------|--------|-----|-----|
| 1    | 知っていた  | 134 | 88% |
| 2    | 知らなかった | 18  | 12% |
| 3    | 未回答    | 1   | 1%  |

Q2：今日の講演を聞いて、内容について理解できましたか。

| 回答内容 |          | 回答数 | %   |
|------|----------|-----|-----|
| 1    | よく理解できた  | 100 | 65% |
| 2    | まあ理解できた  | 48  | 31% |
| 3    | 理解できなかった | 1   | 1%  |
| 4    | 未回答      | 4   | 3%  |

Q3：今後もいろいろなボランティア団体が開発途上国の住民等へ支援・援助することは必要だと思いますか。

| 回答内容 |             | 回答数 | %   |
|------|-------------|-----|-----|
| 1    | 必要だと思う      | 147 | 96% |
| 2    | 国同士で行うだけで十分 | 2   | 1%  |
| 3    | 分からない       | 3   | 2%  |
| 4    | 未回答         | 1   | 1%  |

Q4：今日の講演を聞いて、また「現地からの報告」を聞いてみたいと思いましたか。

| 回答内容 |         | 回答数 | %   |
|------|---------|-----|-----|
| 1    | 聞きたいと思う | 135 | 88% |
| 2    | 少し思う    | 15  | 10% |
| 3    | 全く思わない  | 0   | 0%  |
| 4    | 未回答     | 3   | 2%  |

Q5：今日の講演を聞いて、ボランティア活動に参加してみたいと思いましたか。

| 回答内容 |         | 回答数 | %   |
|------|---------|-----|-----|
| 1    | すでにしている | 72  | 47% |
| 2    | したいと思う  | 70  | 46% |
| 3    | 特に思わない  | 7   | 5%  |
| 4    | 未回答     | 4   | 3%  |

Q6：今後もボランティア団体のこのような講演会を支援する助成活動事業は必要だと思いますか。

| 回答内容 |           | 回答数 | %   |
|------|-----------|-----|-----|
| 1    | とても必要だと思う | 110 | 72% |
| 2    | 必要だと思う    | 40  | 26% |
| 3    | 特に思わない    | 1   | 1%  |
| 4    | 未回答       | 2   | 1%  |

| 年代別 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 未回答 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|     | 12% | 11% | 12% | 13% | 18% | 16% | 14% | 4%  |

| 男女比 | 男性  | 女性  | 未回答 |
|-----|-----|-----|-----|
|     | 35% | 60% | 5%  |